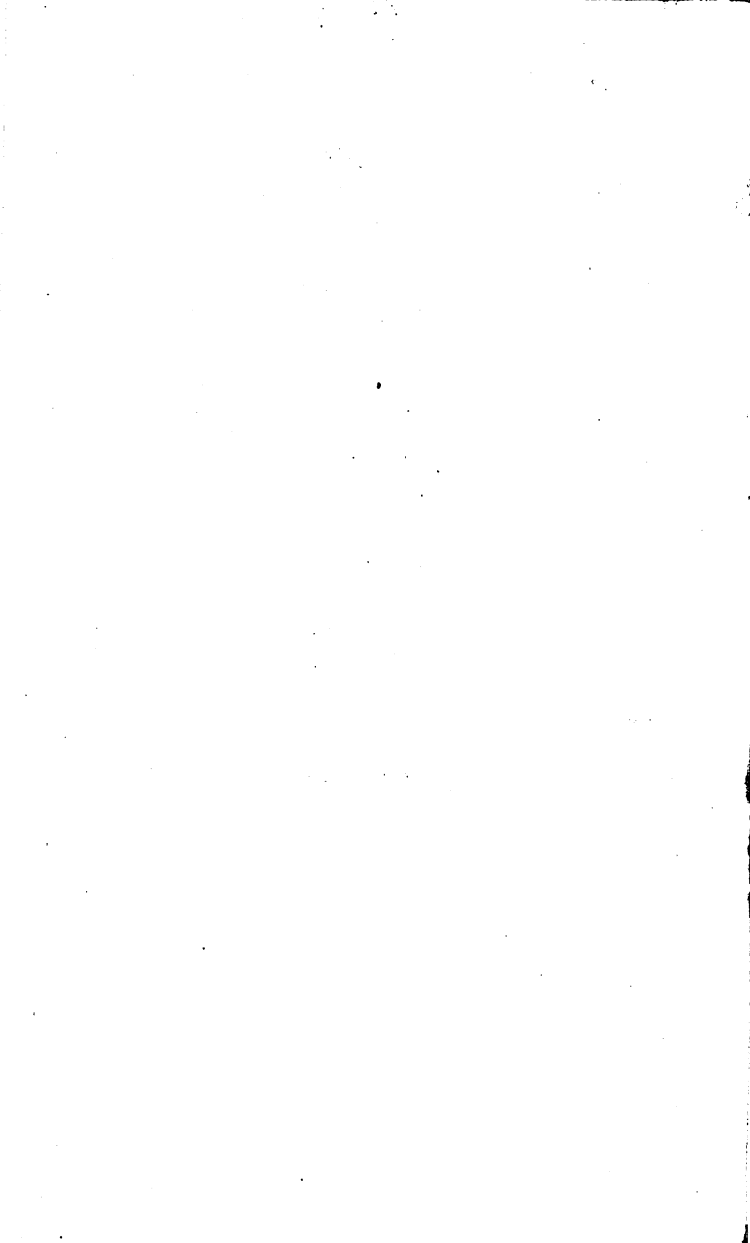


近松淨瑠璃集

中



緒言

上卷に續きて本書收むる所十六種其登場年代及び作者の年齢等を示せば次の如し。

傾城反魂香	寶永二年八月十五日	五十三歳
心中二枚繪草紙	同 三年三月廿七日	五十四歳
碁盤太平記	同 三年六月朔日	同
戀八卦柱曆	同 三年九月廿一日	同
堀江川波鼓	同 四年二月十五日	五十五歳
緋縮緬卯月の紅葉	同 四年四月廿一日	同
卯月潤色	同 四年六月朔日	同

丹波 興作	同	四年六月廿四日	同
心中 萬年草	同	五年四月十六日	五十六歳
五十年忌歌念佛	同	六年正月二日	五十七歳
今宮 心中	同	七年正月廿三日	五十八歳
心中刃は氷の朔日	同	七年六月十六日	同
夕霧阿波鳴渡	同	七年七月廿四日	同
冥途の飛脚	正徳元年三月	五日	五十九歳
吉野都女楠	同	年九月十日	同
孕常盤	同	三年七月十六日	六十一歳

此中傾城反魂香、碁盤太平記、吉野都女楠、孕常盤の四傑作を除く外、悉く世

話物にして、作者老熟の筆よく當時の世態人情を曲盡せし世話物廿四編中、實にその半を占めたり。

校訂は既に上卷に陳べたる如く、一々原本に従ひ、其面目を保存する事を努め、假名の多くして煩はしき所にのみ、近松慣用の漢字を擇びて多く填められたれば、従來の覆刻本に比して、體裁大に異なるものあり。左にその用字形式等の一斑を掲げて參考に供せん。

一、牢人(浪人の事)、十面(澁面)、腰本(腰元)、見廻(見舞)、御共(御供)、念比(戀
劍(劍)、囉ふて(貰うて)の類、又人名にも、高氏(足利尊氏)、秀平、忠平(藤
原秀衡、同忠衡)の如く、故らに換へたるらしき所あり。甚しきは夫をツマ
と讀むに當り、妻字を宛てゝ實の妻と混するが如き所もあれど、其等は

一々頭註にことわり置きたれば、聊か紛るゝ事なし。

二、見へて、聞へて、心へての如く、也行、阿行を波行に混用したる例多かる外、「壹人おばお藤と呼だ」「虫籠をはづひて」「負ほて」「とおらぬ」「破軍がなおつた」「珍らしむ」「恨めしむ」「榮ゑて」「をのれ」「こふせふ」「そふして」の如き異例も多々あり。

又、「ぬつほり」「へん」「かつはと」の如く、半濁音符を省略するは原本の常なれども、是には讀過の便宜を圖りて、特に「○」符を加ふる事となしぬ。

三、原本なり又は「なる」と讀む場合に成の字、「あり、ある」の時には有の字、「ともども」には共の字、「つき、つく、つけ」は付の字を當つる事通例なり。

又、「まで」は迄の字、「ばかり」は必ず斗の字、本書計の字に改む、「申し、申

すの場合、何れも送假名を添へずして、單に申の字のみを當つる等、殆ど一定の形式となりたり。

原文の體裁斯の如し。其他漢字に振假名なくして二様に讀まるゝ所などは、態と假名を省けり。

本書の覆刻に用ひたる原本左の如し。

傾城反魂香(八行本)

心中萬年草(八行本)

夕霧阿波鳴渡(八行本)

卯月潤色(八行本)

孕常

盤(十行本、最後一枚十一行)

碁盤太平記(八行本)

戀八卦柱曆(七行本)

ひぢりめん卯月の紅葉(八行本)

丹波與作(七行本)

冥途の飛脚(七行本)

吉野都女楠(八行本)

以上凡て丸本

心中二枚繪草紙(八行本)

堀江川波鼓(八行本)

今宮心中(八行本)

五十年忌歌念佛(八行本)

心中刃は氷の朔日(八行本)

以上凡て嚴密なる寫本

以上の諸書中、碁盤太平記以下十一編は悉く高野斑山氏の珍藏に係る。余が本書を校訂するに當り、筐底の祕を舉げて之を貸與せられたるは、深く感佩して措く能はざる所、特に記して感謝の意を表す。

大正二年七月

校註者 忠見慶造

近松淨瑠璃集 中巻 目録

傾城反魂香

一—六

上之巻

..... 一

中之巻

..... 二五

三熊野かげろふ姿

..... 四八

下之巻

..... 五六

心中二枚繪草紙

六—八

上之巻

..... 六一

中之巻

..... 六八

下之巻

..... 七六

血死期の道行

..... 八一

兼好法師碁盤太平記
あとおひ

八五—二〇

附たり師直がさよ衣今に一様の

黒羽織并に大勝四十七目のいし..... 八五

おさん二ひはつけいほらこよみ
兵衛戀八卦柱曆(大經師昔曆) 二二—二四

中之巻

..... 二五

下之巻

..... 三七

道行乗合鞍

..... 四四

堀江川波鼓

一九—二七

上之巻

..... 四九

中之巻

..... 六〇

下之巻

..... 六九

與兵衛ひぢりめん卯月の紅葉

一七—二〇

廿二社巡り

..... 七七

中之巻

..... 八七

末期の道行……………一九六

あとおうづの潤色
ひ心中卯月の潤色

三〇一—三三三

上卷……………二〇一

末期の道行……………二〇一

中之卷……………二〇五

下之卷……………二一八

助給書置……………二一八

丹波與作

二三三—二六三

上之卷……………二二三

道中雙六……………二二七

中之卷……………二三四

下之卷……………二五四

與作小まん夢路の駒……………二五四

與作おどり……………二六一

女人堂
高野山心中萬年草

二六三—二九〇

上之卷……………二六三

中之卷……………二七三

下之卷……………二八四

おなつごじふねんき
清重郎五十年忌歌念佛

二九一—三三〇

上之卷……………二九一

中之卷……………二九七

下之卷……………三一〇

お夏笠物狂……………三一〇

二郎兵衛いま
おきささ今宮心中

三三一—三三〇

中之卷……………三三一

下之卷……………三四五

二郎兵衛おきささ道行……………三四五

心中刃は氷の朔日

三五二——三八八

上之卷 三五一

中之卷 三六五

平兵衛小かん夜ルのあさがほ 三七九

夕霧阿波鳴渡

三六五——四一四

上之卷 三八五

中之卷 三九五

下之卷 四〇七

あひの山 四〇九

忠兵衛の飛脚井三度笠

四一五——四四四

上之卷 四一五

中之卷 四二四

下之卷 四三四

吉野都女楠

四四五——五〇四

忠兵衛相合かこ 四三四

第二 四五八

第三 四六八

第四 四八一

天皇かちよの御ゆき 四八七

第五 四九七

孕常盤

五〇五——五五六

第二 五一九

模様盡し 五二二

第三 五三一

露の響虫 五三六

第四 五四四

第五 五五二

近松淨瑠璃集中卷索引……………五七—五九四